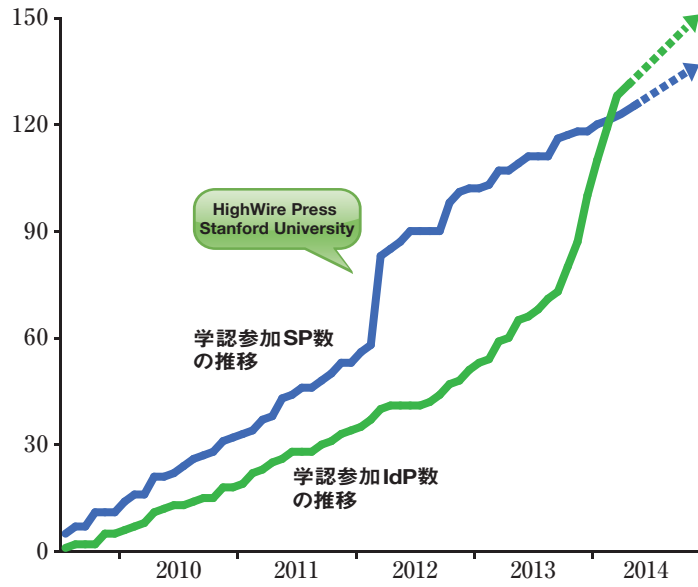


潜在的参加機関数は約800！

全国約800の大学等でインフラ整備が進行中。
「学術クラウドには『学認』」という時代がやってくる。

NIIでは、全国の約800の大学等を結ぶSINET(サイネット)を提供し、学術クラウドの活用を支援しています。これは、これらの機関すべてが「学認」に参加できる基盤を有していることを意味します。もちろん、SINETに接続していない機関からでも「学認」に参加可能です。一方、SPの参加数は現状約120ですが、その伸びは順調に推移しており、機関の増加と共にSP側の参加に対するインセンティブも増大中です。「学術クラウドなら『学認』」という時代はすぐそこまで来ています。



学認参加への手順

学認に参加するには、IdPやSPの構築を行うとともに、学認のWebサイトから新規IdP申請または新規SP申請を行います。

学認WebサイトURL: <https://www.gakunin.jp/>



学認Webサイトをフルに活用

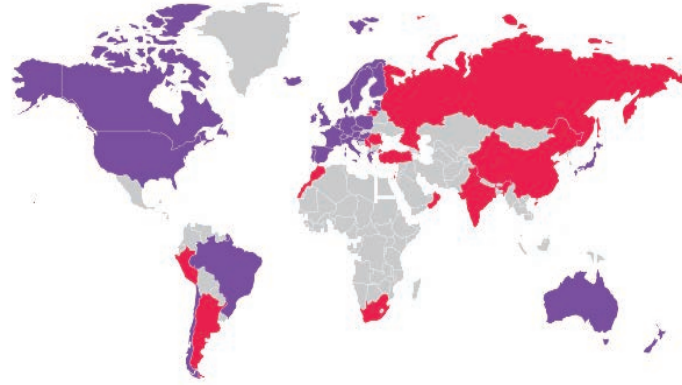
学認のWebサイトには、IdPやSP構築のための技術ガイド、学認に関するイベントガイド、情報交換MLへの参加方法など、学認に関する必要な情報がすべてそろっています。

世界の潮流に乗った技術を採用

標準プロトコル「SAML」による運用で
国際化への対応も万全

学認は、世界中の学術認証フェデレーションで採用されているSAML (Security Assertion Markup Language) で運用されています。

NATIONAL IDENTITY MANAGEMENT FEDERATIONS



出典: <https://refeds.org/resources/index.html>

学認では、IdPとSPにおける認証の通信方法として、標準プロトコルSAMLを採用しています。これを実現するためのデファクトスタンダードソフトウェアが、米国Internet2が開発したシボレス (Shibboleth) です。学認でも、多くのIdPやSPがシボレスを使って運用されています。また、シボレス化されたeLearningシステムやeScienceプラットフォームが世界中で提供されつつあります。将来は、大学や国の枠を超えた国際共同研究への利用が期待されています。

安心・安全で トラブルフリーな導入を実現

学認では参加に際し、接続試験と本格運用の2段階のステップを提供し、安心・安全な導入を実現しています。

IdPやSPが学認への参加のためにシステムを構築する際、原則として、まずテスト環境で動作確認した後、運用フェデレーションに移行します。それぞれのフェデレーションへは、学認申請システムから参加申請します。

① **テストフェデレーション**
接続試験を目的としたテスト環境を提供し、構築したIdPやSPの動作試験を行うための環境。シボレス以外のSAMLに準拠したシステムについても、接続試験を行った上で、運用フェデレーションに参加することが可能です。
テストフェデレーションはどなたでもご利用いただけます。

② **運用フェデレーション**
テストフェデレーションにおいて動作確認等の条件をクリアした後、機関の実データを用いる運用フェデレーションに移行します。UPKIサーバ証明書プロジェクト (<https://upki-portal.nii.ac.jp/>) に参加しておくこと、移行時に必須となる証明書の取得にも便利です。

運用フェデレーションには、国公私立の大学、短大、高等専門学校、研究機関、大学コンソーシアム、病院などが参加しています。SINET接続を持たない機関からの参加も可能です。

シボレスの環境構築で悩まない

企業の方々も参加できる研修も実施しています。
情報交換MLやイベントガイドで開催予定をご案内します。

ID連携で 学術環境の高度化を加速

クラウド時代の学術コンテンツ流通革命



大学ICTにおける運用課題を解決する手段としてクラウド化への移行は急務。

学術分野における認証基盤のデファクトスタンダード

「学認」が、クラウド化を強力にサポートします。



GakuNin